

---

# 放課後30分。

五堂じゅん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

放課後30分。

### 【Zコード】

Z0941Z

### 【作者名】

五堂じゅん

### 【あらすじ】

誰かを愛することは、私にとって勉強なんかよりも大切で、今しかできないこと。

「先生、私と結婚しようよ。いますぐここで、キスしてよ。」

義父からの性的虐待を受け、心に深い傷を負った彼女の精一杯の愛情を先生に注ぐ。

放課後30分の2人きりの時間、彼女にとつての幸せな時間。五堂じゅんの初連載開始です！

## 1、先生と私

「先生は、子供が産まれた時のこと、覚えてる？」

高校3年の春、私は先生は訊いた。

私の担任の川上先生は23歳独身。バツイチ。

19歳で結婚、21歳で離婚。

子供がいたそうだが、離婚以来会っていないという。

細身で長身の先生の担当は数学。白衣の似合いそうな先生だ。

「いや、覚えてないな」

先生はいつも言う。

「出産にも立ち会えなかつた。俺、授業してたしさ。

実を言つと、子供とあんまり会えなかつたし。あの子も、俺のこと

なんて覚えて

ないと思うよ」

ふーん、と私は先生を見た。

「なんだよ」

先生は少し不機嫌そうに眉を寄せた。

「先生も、やることやつてたんだね」

「つるさい。もう5時だぞ、早く帰れ」

先生はまだ明るい空を見た。

ずいぶん陽が長くなつてきた。

立つてゐるだけでも汗ばんでくるのが分かる。

「まだ、5時じゃん。私帰りたくないなあ……」

私は憂鬱になつた。

「どうした？ 何かあつた？」

先生の少し甘い声がセクシーだ。

「大丈夫」

私は座つていた机から飛び降りて軽い鞄を持った。

「30分も引き止めちゃつたね。先生、お疲れ様。ばいばい」

「おう。また明日」

笑顔で手を振つてゐる先生に私も手を振り返す。

明日もまた、30分。

先生と話す時間は、私にとっての救いの時間。

私は小さくため息をついて帰路についた。

私は相沢夏希。

高校生活も残すところ9ヶ月。

私は、この9ヶ月を、誰かを愛せる時間にしたいと思っていた。

## 2、兄と私

人はどうして、同じじやないのだらう。

それはきっと、育つてきた環境がそいつをせるのではないか。

同じだつたらどんなにいい事か。

同じ意見、食い違ひのない話。喧嘩などありえない世界。

「夏希」

「なに」

私は振り返る。

そこには5歳離れた兄、悠太が立っていた。

「今日、お父さん帰つてくるつてぞ」

「・・・・・そう」

返事が少し遅れた。

そうか、あの父が帰つてくるのか。

いつもは帰らない。

きっと2号や3号の家にいるに違いない。

そう、あの男は愛人を囲つているのだ。

「怖い？」

兄に聞かれて、首を振る。

「ううん。もう慣れた。昔に比べたら、・・・今はマシな方よ

言いながら涙目になる。

「ごめんな、夏希。俺、なんもできなくて」

「この・・・しょうがないよ。お兄ちゃんは悪くない」

すると兄は私の座っている横に腰掛けた。

しばらくためらった後、遠慮がちに兄の大きな手が私の髪の毛をかき混ぜた。

「・・・もう少」

私が苦笑すると兄も同じように笑い「『めんな』と言つて、リビングを出た。

きっと、同じ人ばかりなら、人の優しさなんて感じられない。

みんな違うから、温かいんだ。

### 3、義父と私

あれは中学2年の秋。

「いやつ！ねえ、やめてつたら！」

はだけたシャツの上から綺麗な手が胸をいやらしく動く。おじちゃんの息づかいが荒くなるのが分かる。

「おじ、せ…ん！い…つ！いい加減に、して…！」

堪えきれず喘いでしまった私におじさんは口角を上げた。「夏希ちゃんは敦子に似ていやらしい身体してるね。

中学生のクセして、胸でかすぎ。

クラスの男子も絶対お前の胸、揉みたいって思つてるよ。

毎日お前のアンアン喘ぐ姿想像してんだろうな

必死で声を抑えてひたすら事が終わるのを待つ。

敦子　　お母さんの再婚相手は私と千支一回り違つ、お母さんより  
7歳年下の男。

お父さんとお母さんは私が小学3年の時に離婚した。

私はお父さんが大好きだった。

悪いのは浮氣したお母さんなのに、両親は離婚して、私達兄弟は不幸な事にお母さんに連れて行かれた。

お母さんの男遊びは離婚をしても変わりはなかつた。  
今でもよく家に愛人を連れてくる。

それを再婚相手のおじさんが何も言わないのは、彼も同じ事をしているから。

要するに、似たもの同士なのだった。

おじさんは有名化粧メーカーの跡取りで、だからたくさんのお家を持つている。

そこに、「お手伝いさん」として愛人を住まわせていた。

私がからしたらお金と欲にまみれた汚らしい男に他ならなかつた。

「お父さん」は今でもお父さんだけだし、外に女を囲んでる男なんて死んでも「お父さん」とは呼びたくなかった。

お母さんが家を空けているときにおじさんが帰つてくると、中学生の私を相手に性欲を解消しようとした。

私が「お父さん」と呼ばないのも原因だとは思ひ、けび、あんな男をお父さんと認める訳がなかつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0941n/>

---

放課後30分。

2010年10月10日21時15分発行